# ばってん

事務長会報第39号
平成28年3月31日
長崎県公立学校事務長会
長崎県立鳴滝高等学校内
〒850-0011
長崎市鳴滝一丁目4番1号
電話（095）820-0056



ホテル セントヒル長崎
TEL095-822-2251
長崎市筑後町4番10号


## 正月に想う

副会長（佐世保中央高等学校）**大野　公一**

「ばってん」への寄稿を依頼されたが、何を書こうか思い悩み、ペンが全く進まないうちに年が明けてしまった。

今年の正月は暖かかった。

元日はいつものように諏訪神社に初詣に出かけた。引いたおみくじは大吉だった。干支の縁起物も買った。取材中のＮＢＣラジオのスキッピー号のかわいいお姉さんから生出演の声もかけられ、何となく心も温かくなった。

予定では、妻の提案で、今年の新年はパリで迎えるはずだった。しかし、昨年１１月１３日のパリで発生した同時多発テロの影響で、ツアーの参加を諦めて旅行をキャンセルせざるを得なかった。

そのため、せめて初売りは博多へと出掛けたものの欲しかったデジものは買わずじまいだった。

博多の街で数日を過ごす中、ふと、三十数年前の事を思い出した。思い出しはしたが記憶は断片的である。

大学生の頃の話で、正月の帰省途中に立ち寄った天神か博多駅前地下街の書店だったと思う。立ち読みした雑誌は、週刊ポストか現代、もしかしたら週刊プレイボーイだったような気もする。

そこで目にしたのは、今後起きる戦争や大事件などを暗示する予言の書に関する記事であった。

正確には覚えていないが、「三十〇年後、フランスが正義軍として悪の国を討伐するため進軍し、ヨーロッパに平和がもたらされる。」というようなことが書かれていた。

その時は、自由を国是とするフランスがなぜ、どう考えてもありえない話だよねと思ったと記憶している。

予言書のたぐいに特に興味をもっていた訳ではないが、何故かこの記事が気になったのである。

結局、その週刊誌を買ったのか買わなかったのかもはっきりしないが、もし、この記事を切り抜いて三十数年間持ち続けたら、ここに書かれた予言が当たったのか外れたのか検証ができるけどなと思ったことが蘇ってきたのである。

パリでのテロ後、フランスのオランド大統領は戦争状態にあると言い、地中海に空母を送り、イスラム国に対し戦闘機による空爆を強化している。そして、多くの国が共に戦うべきだと唱え、また、地上部隊の派兵を計画しているといった報道もなされている。

まさか三十数年前に読んだ週刊誌に書かれていた予言書どおりに事が進んでいるのではないのか。

このことを誰かに話してみたくなり、妻や知り合い数人に話してみたが、案の定、「ふう～ん」と軽く受け流されてしまった。まあ当然といえば当然なのだろう。

文字数を稼ぐためとはいえ、ここまで取り留めもないことを書いてしまったが、最後に予言？をしたためてペンをおきたい。

『平成２８年６月に長崎市で開催された第３８回九州地区公立学校事務長会研究協議会は「九州はひとつ」の合言葉のもと、大成功のうちに終了した。』

『そして、大会成功に向けて大会実行委員会を中心に準備や運営に全会員が一致協力し対処してきた「長崎県公立学校事務長会」は、ここ数年来の何となくもやもやしていた空気が払しょくされ、諸先輩方が築いてこられた伝統をしっかりと受け継ぎつつ、明確な意思と目的をもった強固な組織として、長崎県の教育の一層の充実発展のためにその役割を十分に果たしていった。』と・・・。

今、改めて、周りを見回すと、事務職員協会等と連携・協力を行いながら、具体的な成果を目指した取り組みを進めている「業務改善」が待ったなしである。

また、文部科学省の中央教育審議会が答申した「チーム学校」構想に、事務職員の職務規定を見直し学校運営に関わる役割があることを法制化することが明記され、事務職員の更なる意識改革とともに、学校運営への参画も待ったなしとなった。そして、九州地区事務長会の長崎大会に向けての準備・対応も待ったなしである。

みなさん、ますます忙しくなると思いますが、お互いに力を合わせて頑張っていきましょう。

## 春よこい

諫早特別支援学校　**清水　俊章**

今年で退職になります。最初に諫早農業高校の高来分校に勤務してから３８年が経ちます。赴任したとき閉校となる年だったので、産振等備品の廃棄や所管転換の業務がありました。当時は写真の省略規定がなかったので、何百点もの撮影が必要となりました。知識がなかったのでフィルムをよく装填していなかったり、撮影しても絞り等が間違っていたり失敗ばかりでした。備品のありかを探すのが大変でしたが、カメラの操作については少しずつ理解できるようになりました。いまでもその知識が役に立ち、コンデジ以外に一眼レフも使っています。

さて、昨年１１月に退職の記念とその後の余暇に使うため少し燃費の良い車に更新しました。ところが最近は皮肉にもガソリン価格が下落の一途、複雑な気持ちでいます。ともかく、燃費を気にせずに遠いところに行って自然や風景の写真を撮りたいと思っています。

また、「趣味の園芸」等で情報を集めています。小さな花壇や畑に花や野菜を作りその記録も撮りたいと思っています。それといつかは孫の顔も。

せわしく急ぎ足で過ぎてきた３８年。まずは２階に押し込んでいる古いがらくたを思い出と一緒にゆっくりと整理します。そしてこれからは、立ち止まって道ばたの花を見、虫の音を聞き、手のひらに雪を感じ、季節の移ろいに心が震えるようなゆとりを持ちたいと思います。大変お世話になりました。ありがとうございました。

---

## 奈留島で迎えた６０歳

虹の原特別支援学校　**高西　正隆**

「ばってん」への寄稿は今回で３回目です。１回目は大村工業の主任の時、２回目は奈留高校の新任事務長の時でした。さて、今回は何を書くべきか迷いましたが、事務長の方々へ示唆となるべき記述は、見識の無い私にはできませんので、職務と無関係な記述となりますが、ご容赦願います。

平成２７年１０月２４日（土）この日は、私が３年間勤務した奈留高校の創立５０周年記念式典の日であり、私の６０歳の誕生日という記念すべき日でした。この良き日に、私にとって生涯忘れることのできない感動的な出来事が起きたのです。それは、式典の終了後すぐに起きました。奈留高校の愛唱歌「瞳を閉じて」を作詞・作曲した荒井由実（松任谷由実）が突然に式典会場へ登場したのです。私にとって、ユーミンは大学生時代に「瞳を閉じて」を含むアルバム「ＭＩＳＳＬＩＭ(ミスリム)」聴いて以来の大ファンです。その彼女が目の前に現れた時、ものすごいオーラを感じ、感動で背中がゾクゾクとしたことを覚えています。わずか１０数分程度でユーミンは会場を退出しましたが、間近な場所でユーミンを見ることができ、私はたいへん感激しました。感動的な出来事はこれだけでは終わらなかったのです。彼女は、ＮＨＫの番組「ＳＯＮＧＳスペシャル　松任谷由実」制作のために奈留島を訪れており、式典後に奈留高校内で撮影を行い終了次第、海上タクシーで奈留島を離れることとなっていました。そのことを聞かされていた私を含め祝賀会参加者は、彼女を見送るために海上タクシーが停泊する桟橋で到着を待っていました。待つこと１時間ほど、ユーミンが乗る車が桟橋の近くに到着し、車から降りた彼女は、海上タクシーが停泊する場所までの百メートル程を歩きながら、見送りの人たちにまず手を振りながら別れの挨拶をしていました。ところが、私の１０人程前からユーミンが見送りの人と握手を始めたではありませんか、このチャンスを絶対逃してはならないと待ち構えていると、いよいよ彼女が凛として私の前に立ったのです。私は、彼女の手を強く握れず、軽い握手となりましたが、最高の喜びを味わいました。夢のような出来事が起きた１日でした。このような出会いができた、奈留島に感謝したいと思っています。

さて、誰も興味が無いことを長々と述べ申し訳ありませんでした。最後に一言、職務に関係することを述べます。学校事務職員が担う業務は、今後も楽になることは無く、厳しい状況が続くことが目に見えています。事務長として職務の研鑽を積み、事務長としての自負を持ち、己の人間性を日々高め、事務室に勤務する方々と手を携えて諸々の難局を乗り切ってください。それでは、くれぐれも心と身体の健康にはご留意ください。

追伸、掲載の写真は１月１７日、野母崎水仙ウォーク出発前の少々緊張気味の１枚です。

---

## 「お世話になりました」

清峰高等学校　**五嶋　力生**

昭和５５年採用から３６年、初任校の西彼杵高校から、現在の清峰高校まで、１０回の転勤を経験した。３年か４年で異動である。その間に指導していただいた事務長さんも１７名を数え、先輩や同僚の事務職員を考えると、多くの人たちにお世話になりました。改めてお礼申し上げます。

勤務校は、佐世保南ほか２校の普通校、佐世保商業、北松農業、鹿町工業、総合学科（清峰）、佐世保中央高夜間部、佐世保特支と、多くの校種の学校で、いろいろな経験をさせてもらった。

佐世保南高校では、平成１６年３月の春高バレーで、男子バレーボール部が全国優勝を飾り、翌年も前年度優勝校としての出場が決定し、学校、ＰＴＡ、同窓会が一体となり活発な活動となった。年度末の大会で、事務室も大変忙しい時期ではあったが、終わってみれば、良い思い出である。

清峰高校では、甲子園出場の期待もあったが、残念ながら叶わなかった。全国優勝から６年が経ち、「清峰高校で野球を」という生徒も少なくなってきている。今後の生徒のがんばりに期待したい。

事務長会誌「ばってん」の原稿集めは、毎回毎回苦労しています。担当者からの原稿依頼は、快く受けてください。皆さんの会誌です。投稿も大歓迎です。広報部員としての最後のお願いでした。

---

## 大切な先輩の教え

桜が丘特別支援学校　**山崎　聡**

桜が丘特別支援学校に赴任して、早くも１年が経過します。１８年ぶりの学校現場は、電子化が急速に進み、新しい知識やパソコンのスキルを求められるなど、事務作業のやり方は大きく変わっていました。事務職員と２名体制の学校では、事務長も担当者としての役割を担わなければなりません。年度当初は、やるべき仕事は多いのに勝手がわからず一向にはかどらない中、先輩事務長さん方に教えを請い、嫌な汗をかきながら提出期限とにらめっこの日々でした。

そういう時間を過ごしながらも、最初に取り組んだことの一つに、職場における良好な人間関係の構築がありました。その理由は、初任校でお世話になった先輩の教えが今でも頭から離れないからです。「仕事で大切なのは人間関係をうまく作ること。そこがうまくいけば仕事の７割から８割は成就したようなものだよ。」それから３０年、常にそのことを意識し「和をもって事を成す」は、私の座右の銘となりました。日頃から職員間でコミュニケーションが図られていれば、色々な情報が集まるようになるし、早く手を打つ

ことができます。事務室の雰囲気作りや事務室と職員室の距離感を近づけることは事務長の大切な役割だと考えています。

ところで、どこの学校でも、児童生徒が安全安心に生き生きと学ぶための教育環境の整備に努めていることだと思いますが、本校のように病弱や肢体不自由、発達障害の子どもたちが通う特別支援学校では、施設の安全確保や環境美化に取り組むことは特に重要です。日々の安全点検や清掃は言うまでもなく、敷地が狭くてもプランターや花壇に季節の花や野菜を育てることは心の涵養にも繋がります。これも力を入れる取り組みのひとつです。

環境整備と言えば、私の住む長崎市の東部に位置する高城台では、草刈り作業や花壇作り、国の補助金を活用した森づくり事業といったボランティア活動が盛んです。数年前から植樹している桜や紅葉などは年を追うごとに成長した姿を見せてくれます。また、今年の１月には炭焼き窯が完成し木炭作りにも挑戦しています。皆さんも機会があれば一度足を運んでみてください。

## 巡礼の島、五島より

五島高等学校　**原口　博光**

早いもので五島高校での生活も１年が過ぎようとしています。私が赴任したこの五島は、長崎港から西方へ１００ｋｍ、五島灘を経て中国大陸への中継地点となる場所に位置し、福江島は遣唐使の寄港地だったため、中国から持ち込まれた文化、またキリシタン信仰の文化が独自の五島文化を形成していったと考察できます。以前４年間を壱岐島で過ごしたこともあり、島での暮らしはなんとなく想像がついていましたが、地域の雰囲気や、そこに住む人々、気候風土の違いで、やはり違う島なんだなと感じています。

私たちは長崎県の「しま」をひとくくりにして、つい「五島･壱岐･対馬」と言ってしまいますが、地域それぞれが独自性を持ち全く異質なものです。本土地区についても、県北・県南・島原半島と、それぞれの地理的要因により地域性が違います。（まさに長崎県の地域性は多種多様と言えますね。）教職員として、事務職員として、人事交流にて転勤し、居住するからこそ分かることかもしれません。

五島高校は全国でも珍しく、城壁と壕に囲まれた「石田城」跡にあります。離島留学制度の導入、競技力向上・指導者育成を目的とする普通科スポーツコースや、県内の公立高校では唯一の衛生看護科があり、特色ある教育活動により、島内だけでなく県下全域、日本全国から生徒が集まっています。教職員も若い人が多く、活気に満ちあふれた学校・職場というイメージが強いです。

高等学校は、それぞれの校種で、学校独自の経営方針や目指すべき学校像を目標に教育活動を実践しています。生徒ひとり一人が主役となり、すべての生徒が希望する進路実現できるように、教職員の一人として何ができるかを考え、日常の業務を遂行してゆこうと思います。今後とも、諸先輩方のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

# COFFEE BREAK

## 体験入部

長崎明誠高等学校　**山崎　健二**

放課後の時間を利用してグランドをランニングしたり、運動部や文化部の活動を見学に行ったりしています。そのなかで…「ボート部」。鏡のような水面に一筋の航跡を残しながら、まさに滑るように進んでいる姿を見ると…。気持ちよさそう！。と言うことで顧問の先生にお願いして漕がせてもらいました。ダブルスカル用の艇に乗り込みオールの持ち方から教わり、漕ぎ出したのですが…。持ち手の部分が体の前で交錯するので、左右の持ち手がぶつかって『痛い！』。オールが左右均等に水面に入らないので、『真っ直ぐ進まない！』。そしてなにより『疲れる！』。約30分程度でギブアップ。教えてくれた生徒は幼い頃から知っている子だったのですが、たくましく成長した姿にちょっと感動！。学校で勤務できる喜びを改めて感じた体験入部でした。

## つくば同窓会長崎漫遊記の巻

ペンネーム：**西彼杵のジュリアン**

昨年９月のこと。平成２０年度のつくば研修で同じ班だったメンバーで、毎年持ち回りで２泊３日の同窓会をしておりましたが、６年目にしてついに私の番が回ってきました。

「つくば同窓会ファイナル　ｉｎ長崎」であります。同窓会といっても皆さん先輩事務長で、６名中退職者２名、各地の会長や指導的立場の方々ばかりで、自分がいちばん‘ヒャー’であります。

北海道、群馬、和歌山、大阪、岡山、そして長崎。私はこのうち、群馬、和歌山、大阪に参加し、いずこでもたいへんお世話になりました。群馬は草津温泉に軽井沢、和歌山は高野山に白浜海岸、大阪は岸和田のだんじり祭りと、どれも楽しい思い出であります。

というわけで最後の長崎で失敗するわけにはいきません。しかし何もいい案は浮かばず・・・そうだ軍艦島だ！と思って５月にJTBに頼みましたが、もうすでに９月の連休はキャンセル待ち。とりあえず長崎と雲仙の宿だけは手配しておく。期待していましたが結局軍艦島はとれなかったので、妻の教え子の漁船を強引にチャーターしました。

当日はとても良い天気で、午後から和歌山、大阪、岡山から３人の先輩が意気揚々といらっしゃいました。まずはウェルカムドリンクで、お決まりの大浦天主堂からグラバー園世界遺産になったので結構な賑わいです。私も何十年ぶりかの入園で、まさに観光客気分です。そして新地中華街で夕食。しかしどこも満員で１時間ほど待ちました。美味しかったけど。１日目は移動でお疲れなので、これでおやすみです。

さてメインの２日目。朝９時半に香焼の漁港で待ち合わせ。寿司屋の兄ちゃんがやってきました。うす汚れた救命胴衣がワイルドな気分を掻き立てます。昨夜は鯵釣りに行ったとかで、生簀はいっぱい。さあ出航です！伊王島大橋をくぐり外海に出ると、兄ちゃんが「こんな凪はめったに無い」と、爽快にすっ飛ばす。観光じゃなくてまるで漁に行くみたいです。３０分ほどで軍艦島に着きました。初めて間近にみましたが、すごい迫力です。上陸はできないので、ゆっくりと一周。船頭さんのはからいで、少し沖に出て裏側から見ると、島影はまさに軍艦。誤って魚雷を打ち込まれたという噂も分かる気がしました。皆さんとても感動してくれたようです。

それから陸に引き揚げて、本場でカステラを買いたいという要望で長崎駅前に寄ってお買い上げ。次は小浜･雲仙に向かいます。途中の昼食は今回私が外せなかった千々石の「ろくべえ茶屋」。しかしここでも行列で１時間待ち。でも珍しい美味しいと評判良かったです。そして小浜で休憩、みんな良くお土産を買ってくれました。下界は暑かったので、雲仙避暑コースにしといてちょうど良かったです。まっすぐに仁田峠へ行き、ロープウェイで普賢岳を望みます。久々の普賢岳は今でもやはり危険な貫禄がありました。あとはゆっくりと温泉とご馳走をいただいてお疲れ様。皆よく仕事の話もします。若手の育成とか、どこも苦労が多く貴重な情報をもらいます。

最終日は深江のみずなし本陣でジオパークを締めくくり、またまたお土産お買い上げ。毎度ありがとうございます。諫早駅のかもめまで送る途中、ちょいと諫早公園の眼鏡橋で記念撮影。灯台下暗し、なかなかの撮影スポットでした。てなわけで無事済んでよかった。一安心。あとでミニアルバムを作って送ったら、皆メールで「長崎よかった～」とのこと。「よかった～」はこっちの台詞です。今回の旅を終えて、ひとを地元に迎えるということは自分自身ふるさと再発見になる、ということを実感しました。自分でも「長崎とってもよかところ」と思いました。これがいわゆるO･MO･TE･NA･SHIなのかな・・・

# 日本一の農業教育を目指して ～知財教育を通して生きる力を身につけさせる～

長崎県立諫早農業高等学校　校長　　林　秀樹

一　はじめに

本県の農業高校に於いては、農業自営者養成を教育目標の第一に掲げ、起業家精神に富む農業後継者を育成することを目指し専門教育を展開しています。卒業生の就農率は、島原半島を中心に自営者養成学科において、全国でもトップレベルにあり、進学や就職、研修後に就農するケースも含めると、約四割が就農しています。その中で、地域産業としての農業の発展に寄与する人材の育成に向けて、関係機関と連携を図りながら様々な取り組みを行っており、そのひとつとして知的財産教育（以下、知財教育）の実践があります。

本県の知財教育の取り組みは、２００４年に島原農業、諫早農業が特許庁主催 知財教育実験協力校（現：（独）工業所有権情報・研修館主催 創造力・実践力開発推進校）に指定されたことから始まり、９年目（平成２５年度末現在）を迎えます。全国の農業高校の中で最も長く指定を受けており、生徒による特許や商標などの知的財産権の出願や、その指導方法・指導体制の改善を続けてきました。

この度改定された学習指導要領において、様々な教科科目の中に、知的財産が謳われ、特に専門科目である農業、工業、商業、水産での重要性は大きいと考えます。

二　ねらいと考え方

本県では、「**発想力を引き出し、産業社会で生きる力を身につけさせること**」を目標に、知財教育を推進してきました。

知的財産とは、人間の知的活動によって生み出されるものであり、農業分野では、植物の品種改良（育成者権）、栽培や飼育技術の改良（特許権、実用新案権、意匠権）、農産物の販売に関わる商標権などが挙げられます。本県では、知的財産を生み（創造）、守り（保護）、活かす（活用）という「知的創造サイクル」の考え方を教育活動の中に取り入れています。すなわち、生徒の創造性を育み、生徒の知的創造を保護し、地域産業に活用するという実践型の学習です。

知財教育といえば、以前は、特許権の制度そのものの学習や、特許出願が目標と思われがちでありましたが、①アイデアを出し合い、日常生活や日々の学習の中で生まれたひらめきを形にする。②色々な実習活動を通して発想や創造の喜びを体験する。③それらの発想や工夫改善に必要なスキル（ブレインストーミングなど）を身につける。④産業やビジネス、また地域の特性を学びながらの商品企画や商品開発を実践する。⑤ものづくりを通しての知的財産にかかるモラルやマインドを習得する学習です。これらの教育は、基礎基本を活用して思考力・判断力・表現力を磨き、産業人としての倫理観を育むこととなり、学習指導要領が求める新しい学力観に沿ったものです。

本県における知財教育の効果は、地元の特産品作りや農業に関する新技術の開発等において顕著です。このことが地域に貢献する人材を育成するとともに、その研究成果により地元の活性化につながることを確信しています。

このような創造的な能力と実践的な態度を身につけ、地域社会と農業の発展を支える担い手として、逞しく活躍する卒業生を、これからも送りだしていきたいと考えています。

## 編集後記

１月２４日（日）、本県は４９年ぶりの大雪に見舞われました。１５ｃｍ以上の積雪で交通遮断など各地で様々な影響がありました。翌日は大半の学校が休校となり、本校でも１時間２０分歩いてたどり着いた私も含めて、６人の職員が出勤しただけでした。先生方と学校の屋上に上り、一面白銀の世界となった周辺の風景を見ながら、在職中はもちろん、一生の中、もう２度と見ることはないだろうとしっかり目に焼き付けました。

今回、林校長先生をはじめ、副会長様、今春御勇退される方、新任の方々に執筆をお願いしましたところ快くお引き受けいただきまして心より感謝申し上げます。また、新コーナーとして設けました「COFFEE BREAK」へも身近なエピソード等を投稿していただきました。特にこのコーナーはより親しみやすさ、楽しさを感じていただくために新設したものですが皆様の御理解と御協力なしでは存続できません。今後も是非奮って投稿していただきますようよろしくお願い申し上げます。

（F・M）